

竹の里地域



データファイル

- 人口 6,557人
 - 世帯数 2,340世帯
 - 面積 0.620km²
- *平成17年国勢調査(10月1日現在)



緑豊かで住みやすい地域をめざして

竹の里地域はニュータウンの四地域のうち、唯一旧字名を取り入れず、新しく作られた学区名です。

開発される前に通っていた、府道大枝大山崎線（西長から灰方へ）の両側の地域で、開発時にはC住区と呼ばれていた学区です。東は小畑川に臨み西側は椎の木川、南は上里に接し、竹の里北通りまでの広い地域です。開発前には大蛇ヶ池、ねずみ池の二つの灌漑用地があり、わかさぎ釣りなどで知られていました。

地域内には、それらの池を利用した大蛇ヶ池公園（5.2ヘクタール）、竹の里公園（1.1ヘクタール）などの大きな公園もあり、西緑地、南緑地、中央緑地などに囲まれた緑豊かな地域です。

また、街路も福西本通り、洛西中央通り、竹の里本通り、新林本通り、竹の里北通りと5路線あり、樹種豊かな四季の風景を見せています。

昭和52年から入居が始まり、はや30年を迎えようとしています。竹の里地域は他の地域に比べ施設面で一番大きな変化をしました。

まず、通学区域が変更になり、一部の区域が上里小学校と、大原野中学校に通うようになり

ました。また、サブセンターにあった市場（スーパー）が無くなり、現在ではリカーショップになっています。

また、スイミングスクールが一般住宅になり、歯科センター（休日歯科診療所）が民間マンションへと変わり大きな問題となりました。

このように地域が大きく変化の中で平成14年には、独自に「地域づくり特別委員会」を発足し、平成17年度から、高齢者が集い学ぶ場として「竹の里『いのち大学』」を開講し、講演等のあとは、「竹の郷温泉」で体を癒すことが、恒例となりつつあります。

また、平成17年8月に設置された、「洛西ニュータウンまちづくり検討会」を契機に、これまでしっかりと根付いてきた様々なまちづくりの活動の気風を受け継ぎ、子どもからお年寄りまでが住みやすい環境を持つ「竹の里」でありたいと願っています。



大蛇ヶ池周遊と西山眺望



新林本通りの並木



新林本通りの並木



防災訓練の様子



隣接する農地から西山を望む



竹の里餅つき大会（竹の里小学校）



南緑地